



ライフスタイルの変化

6月になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。朝晩は比較的過ごしやすいものの日中は30度を超える日も増えてきて、まだ身体が慣れないところにマスクの生活を強いられ例年より不快な思いをされている方が多いのではないかと推測します。

ただ、一部地域では未だ予断を許さない状況が続いており、大変な思いをされている方も多く存在している中ではありますが、4月に発令されました緊急事態宣言も5月半ばには解除され、完全に終息とはいかないまでも東海地区に関しては収束に近い状況にはなってきたのではないかと少し安心しております。今後第2波の話も出てくると思いますので、その備えをしていかなければと考えているところです。

さて、そのような状況下、息子たちの小中学校は6月から授業が再開し、上山学院日本語学校の在校生に関しましても6月15日より通常授業を再開しました。自宅待機や遠隔の授業が続いていた中、久しぶりに嬉しいニュースで、息子たちも久しぶりに友人に会えた喜びを

感じていたようですし、我々も学生たちに会うことができるとも安心しました。その一方で4月に来る予定であった学生に関しては全く入国の時期が見込めず、不安な状況が今後も続いていくこととなります。

ポストコロナ、With コロナなどの表現で、今後のライフスタイルの変化の議論が活発に行われておりますが、どうやら完全に元に戻ることは無さそうです。制約のある生活を強いられた反動で、ある程度は元に戻ろうという動きは出てくるのでしょうか、その動きとコロナ後のスタイルの間で模索が続き、最終的にはコロナ以前の50%くらいは変わってしまうのではないかと思います。特に働き方を含む場所の問題や宴会の頻度などに多大な影響を及ぼしそうな気配がしますので、そのあたりには何か活路がないかと考えております。

非常に厳しい先行きの中、知恵が試されているような気がしております。

上山 伸治

コロナ禍に見る「経世済民」

新型コロナウイルスは世界中に蔓延し、まだ“戦い”のさなかです。人類は疫病との戦いの歴史と言われます。ペストやスペイン風邪にみられるように、多くの犠牲の上に疫病対策の医学・薬学などが発展し、社会や政治、経済のあり方まで変えてきました。

未知のウイルスの世界的拡散を予言したかのような、小松左京著「復活の日」(1975年初版)に、次のような記述があります。「この災厄をもたらしたのは誰だ？人類の機構そのものか？ある時期の誰かのミスか？(中略)二十世紀の政治体制のどこかの一部であることまではわかっているのだ。」と。眠っていたウイルスを目覚めさせたのは、まさしく今に生きる私たちなのだということです。

問題は、目覚めて猛威を振るうウイルスに対して世界各国はどのように対峙しているかです。本来なら発生地である中国と各国が連携協力して感染拡大防止に必要なかつ有効な措置を執り、共同でワクチン開発研究に取り組んでいくべきです。現実には、各国まちまちの対応どころか、大国の対立をもたらしています。残念です。

中国は初動対応の遅れにより感染拡大を引き起こした責任がありますが、中国共産党トップの習近平総書記(国家主席)の鶴の一声で人口1千万もの大都市武漢を76日間封鎖するという強硬措置を執って感染を抑え込みました。国内では世界に先駆けて経済復興と雇用対策を重視し、遅れて感染拡大と戦う欧州などに対しマスクや医療機器、医療チームを提供する積極外交に打って出しています。

新型コロナウイルスを「風邪」並みに軽くみていたトラン

プ大統領は世界最大の感染拡大国にしてしまった自らの責任を転嫁するかのよう中国批判を強め、米中対立を激化させています。

日本では官邸が東京五輪開催と外国人観光継続に固執したため、出入国の果敢な制限措置に後れを取りました。その後も国民への「要請」を繰り返し、ちぐはぐで後手後手の対応です。中国の強権発動とは対照的に、感染が下火になりつつあるのは、日本国民の自粛努力の賜物です。

安倍首相は節目ごとに記者会見しましたが、言葉の軽さもあって国民の心に響く内容とはほど遠いものでした。対照的に、ドイツのメルケル首相は異例のテレビ演説で、旧東ドイツ国民だった自らの体験から「移動の自由を強いる心苦しき」を素直に述べて国民の共感を呼び、内外で称えられました。演説全文からは、彼女の敬虔な宗教心に基づく思慮深い言葉を知ることができます。

各国指導者の違いはどこから来るのでしょうか。普段から国民に向けた政治姿勢をとっているか否か。国民のための政治か、政権維持のための政治か——政治哲学の違いです。政治の根本は中国古典にみられるように「経世済民」です。「世を経(おさ)め 民を済(すく)う」。凶らずもコロナ禍は指導者の資質の違いを否応なく国民にさらけ出しました。

コロナ禍から「本当に必要な指導者は誰か」の判断を得ることが、それぞれの国民にとって貴重な“収穫”と言えるでしょう。

川村 範行
(名古屋外国語大学特任教授
東海日中関係学会会長)

感染拡大予防ガイドライン

今回ご紹介するのは、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインについてです。

現在は感染拡大が落ち着きつつあるものの、人々が活動を再開し往来が活発になれば、当然、第2波、第3波の到来は起こり得ることです。そのため、感染拡大のリスクを最小限に抑えながら活動を継続できるよう、業種ごとにガイドラインが作成されています。

一口に「業種ごと」と言っても数多くあり、管轄する省庁も作成

する法人もバラバラで、非常に分かりにくいものです。そこで、まずは内閣官房の運営する新型コロナウイルス感染症対策サイトに設置されている「業種ごとの感染拡大予防ガイドライン一覧」を確認することをお勧めします。一覧には各ガイドラインへのリンクも貼ってあるので、施設やサービスを利用する際、どんなところに注意すべきか、事前に知ることできます。

この内閣官房の新型コロナウイルス感染症対策サイトですが、以前

ご紹介したときからアップデートが進み、今では質問の入力に対して自動で応答するチャットボットまで設置されています。チャットボットには感染状況や支援策、都道府県別の情報案内など、様々な情報へのアクセスを示してもらえます。

他にも公的支援に関してまとめられていたり、厚生労働省が開発した新型コロナウイルス接触確認アプリへのリンクがあったりと、全体的に使いやすいサイトになっています。

成語故事コーナー

nányuánběizhē

南辕北辙 (なんえんほくてつ)

昔々あるところに、馬車に乗って楚の国を目指す男が居ました。楚の国は南にあるのに、男はなぜか北へ向かって進み続けました。

途中、男は一人の老人に出会いました。老人は彼に尋ねました。

「どちらへ行かれるのですか？」男は答えました。

「私は、とある目的のために、楚の国へ行くとこです。」

目的と行動が一致しない意味で使用され、「北辕適楚 (ほくてつてきそ)」という言い方もあります。

戦国時代、魏王は覇権を握るため、手始めに趙の国を攻めようとし

老人は不思議に思って言いました。「楚の国は南にあるのに、何故北へ向かっているのですか？」

男は何も聞こえなかったのか、そのまま北へ向かって進みます。老人は心配になり、大声で言いました。

「方角を間違えていますよ！こちらへお戻りください！」

すると男も大声で返事をしました。

「大丈夫です、ちゃんと十分な路銀

ていました。そこで、臣下がこの故事を用いて、それでは諸侯の信頼を失い、逆に覇権から遠ざかってしまうと説明し、侵攻を思い止まらせたそうです。

を持って来ました！しかも、この馬は最高の馬で、私は馬を走らせるのが得意なのですよ！」

そう言い残して走り去る男を見送りながら、老人は思わずつぶやきました。

「最高の馬と技術を使って、目的地から遠ざかって行くとは…」

笑い話のような故事ですが、よくよく考えてみると、身近なところでいくらかでも発見できるような失敗なのかもしれません。

漢方教室 114 NMN+冬虫夏草サプリ

【NMNとは】

NMNとは、ニコチンアミド・モノヌクレオチドという物質の略称です。ビタミンB3からつくられる物質で、わたしたちが身体の機能を保つのに必要なNADという物質に変換されます。老化すると、このNADという物質が各臓器で減少する一方で、NMNを体内でつくる能力も減少していくと判明しています。NMNは現在、「若返りの薬」としてさまざまな分野で注目を浴びています。

【サナギタケ冬虫夏草】

サナギタケ冬虫夏草は、カイコ我の幼虫に、冬虫夏草菌の一種を寄生

させたものです。天然冬虫夏草と同属の菌類で、生育メカニズムがよく似ていて、若々しさを保つため高く評価されています。中国では1997年に漢方として認定され、代換医療や病院などでも使われています。

- 年齢サインを感じたら…
- 体調が気になる…
- 若々しさを保ちたい…
- 生き活きと毎日を過ごしたい…

【日本安恵のNMN】

人気の「サナギタケ冬虫夏草」に、更にNMNを配合しました。活力の宝庫「冬虫夏草」と、年齢と共に体内での生成能力が落ちてしまう

「NMN」を手軽に補給し、若々しく、健康な毎日を応援します。

毎日手軽にお摂りいただけるよう、1日の摂取目安量4粒、飲みやすい小粒のカプセルをご用意しました。

もちろん防腐剤・着色料・保存料などの添加物は使用せず、安心してご利用いただけます。

ご興味のある方は、052-242-3930まで。中統ビル3階 日本安恵株式会社



中国から日本へ、その後の暮らし
—思い出すがままに③⑦

昭和26年4月、土岐町立土岐中学校に入学しました。入学して最初にしたことは、小学校の校舎が、土岐川の堤防沿いに新設されたので、校舎移転の手伝いです。小学校で使っていた児童の机や椅子、その他の備品類を1年から3年生の生徒の人力で山の上の旧校舎から川沿いの新校舎まで運びました。およそ1kmほどあったでしょうか。つらい作業でした。

私たちが6年間学んだ小学校の古い木造の校舎が、再びわが学び舎となりました。

中学に入って新鮮に感じたのは、教科担任制になったことでした。新制中学と旧制中学の切り替えの時期だったので、現場はかなり混乱していたのではないかと思います。終戦から5年、すべての教科に専門の教員を配置するのは、困難な状態ではなかったのではないかと思います。旧制大学、専門学校、旧制高等学校、師範学校など、出身校はさまざまでした。当時の先生方は太平洋戦争のため、学徒出陣、召集、志願勤労動員などで勉学の機会を奪われ、大きな犠牲を払った方々でした。ようやく戦争が終わり、生還し、職を得て教員になったものの、生意気盛りの中学生相手に教科の指導、生活指導は、大変だったと思います。そんな中で心に残る先生がいました。続きは次回で。

杉本 克治

6月誕生日の人の言葉

今月の誕生日の人の言葉はお休みします。

Android携帯

先月、携帯の機種変更を行いました。これまで使ってきたiPhoneから、Android携帯へと変更しました。

特にiPhoneに不満があったわけではないのですが、Android携帯に興味があったことと、機種変更のタイミングでちょうどAndroid携帯の新型が発売されたことが重なり、せっかくなので試してみようと思ったのです。

しばらく使ってみたところ、Android携帯も、iPhoneに負けず劣らず使いやすいです。一番大きな違いは、機能的なものよりも、Android携帯には多種多様なメーカーと機種が存在することではないでしょうか。選択の幅が広い反面、操作やトラブルも機種ごとに微妙な違いがあって多少の分かりにくさがあります。逆に、iPhoneはApple社が単独で扱っているため、選択の幅が狭い反面、サポートが手厚いです。

次の機種変更のとき、自分がどちらを選択するのか、まだ予想できません。

⑧

近くて遠い国の隣人との交流！（後編）

景德鎮の赴任時には市内の陶芸作家との交流が有り、とても親日家である先生の娘を上山学院で日本語を学ぶことを私は推奨した。娘は途中で母親の体調が悪くて景德鎮に戻ったが、その後妹の双子の姉妹が2年間お世話になり日本語学習して姉は日本語検定1級、妹が2級を取得して今春から念願の『臨床心理士』の資格獲得目的の愛知学院大学で学び始めた。彼女達には入学の保証人となったり頻繁に激励もしたり生活全般のアドバイスもしている。時折りは景德鎮の作家のお父さんに姉妹の消息を伝えたりしている。

そして景德鎮陶磁大学を卒業して景德鎮市内で陶芸続けた女

性には留学希望で有ったので赴任時に私は彼女に日本語の家庭教師をした。後に彼女は上山学院で2年間日本語学習して2級を取得した。彼女は博士号取得の目的で芸大の研修生で1年学んだ。生憎くと博士課程はその大学院では叶わず再度受験を志して日本語検定1級合格も目指して名古屋で現在も生活を継続している。中国人の世界に雄飛する意欲は古来から積極的である。世界の各地に中華村が存在する事や華僑組織を網羅して、自国民同士の情報に緻密に交換して飛躍した人生を大きく謳歌している。

私は帰国してからも景德鎮陶磁大学の教員との交流や卒業生との交流は続いている。友好交流とは互

いの文化の異なりを認識することから始まる。違いの認知で有れば構えて同調・協調は無理には勧めなくてもよい。近くて遠い国『中国』との交流は日本とは欠くことのできない経済・文化の永遠なる交流であろうかと。私は隣人「中国」とは狭量な陶磁器を通じて終生交流し人間交流を少しでも効果有るようにと決意している。

二十歩(にじゅうぶ)文雄
景德鎮陶磁大学元教授
景德鎮学院文化大使・日本語非常勤講師
美濃陶芸協会会員
東洋陶磁学会会員
愛知県立窯業高等技術専門校元訓練課長

★7月例会

7月例会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

★JCCA 中国語サロン

日時：7月4日（土）18日（土）14：30～

★8月例会

未定です。

★9月例会

日時：9月1日（火）

コロナ禍下における中国語サロン活動の再開について

新型コロナウイルス感染症により生活に影響を受けている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地域活動の多くが自粛せざるを得ない状況にあり、サロンも例に漏れず活動を自粛してきました。5月25日に、それまで出されていた緊急事態宣言は全国で解除され、約2カ月に及ぶ自粛生活はひとまず区

切りを迎えたことにより、6月6日（土）に3か月ぶりに再開し、参加者は2名の中国人留学生と9名の日本人学習者でした。感染防止のための対応は手探り状態での検討でしたが、この度実施した感染予防対策を下記のとおり紹介いたします。（種々の情報伝達メディアで発信されている内容と同じですが（-”-;）

＜ 感染 予 防 対 策 ＞

- (1) 石鹸と水で手を洗い、感染のリスクを最小限に抑える。
- (2) 目、鼻、口を触らない。
- (3) 正しいマスクの着用を含む咳エチケットの実践。
- (4) 握手・ハグなどは避ける。
- (5) 不要不急な外出の自粛や人込みを避ける。
- (6) サロンを実施する際は①～⑧に留意すること。
 - ①入室前に参加者全員、手洗いと手指のアルコール消毒を実施。
 - ②マスクの着用。
 - ③出来るだけ参加者間の間隔をあけて座る。（飛沫防止柵の利用）
 - ④会場の換気をこまめに実施。（若干の室温上昇は我慢していただく）
 - ⑤各自飲料水を多めに用意し、こまめに水分補給する。（熱中症予防）
 - ⑥参加者を限定し大人数では行わない。
 - ⑦出来る限り時間短縮をして終了する。（従前の2時間を1時間半に短縮）
 - ⑧エレベータの呼びボタンは指の直接接触を防ぐ道具を使う。
 - ⑨体調不良を感じた場合は欠席する

＜ 実 際 の 感 染 予 防 実 施 状 況 ＞



■活動開始前の会場設営状況「先生と学習者及び席と席の間に飛沫防止衝立を設置」



■エレベータ直接接触防止器具



■エレベータを下りたら先ず手洗いをします。
■室内に入ったらアルコールで手指消毒します。



■全員揃ったらレッスン開始です。1班は初級2班は中級です。

マスク着用と飛沫防止衝立使用により発音が聞き取り難い面が有るとの意見が有りましたが、参加者の皆さんは概ね満足されておりました。この方法での開催に同意される方はぜひ参加してください。

最後に、仮に今回のコロナ禍が収束したとしても感染リスクは残ることや活動意欲の低下により、以前の

ようなサロン活動に取組めないことが懸念されます。このことについては皆さんの建設的なご意見をいただき、安心して活動を継続できるようにしていきたいと思っています。

日中文化協会中国語サロン 世話人 寺西恒男

編集局

編集局では現在、携帯電話番号、生年月日、E-Mail アドレスのご登録を推奨しています。イベントのご案内、「誕生日の人の言葉」の掲載、WEB サイト更新の通知などに使用致します。china@chuto.co.jp 宛にご送付ください。ニューズレターは、WEB サイトにてカラー版を公開しています。郵送不要の方は「郵送不要」とご連絡ください。



〒460-0008 名古屋市中区栄 4-16-29 中統奨学館
TEL：052-262-1410 FAX：052-262-5036
一般社団法人日中文化協会 編集長 上山耕治